

利尻富士町のリシリコンブを活用したブルーカーボン事業 ～日本のだし文化を守る取り組み～



◆プロジェクトの概要

北海道利尻富士町・利尻漁業協同組合

利尻島沿岸域は、リシリコンブの主産地であり、天然漁場の磯焼けが進んだことから、安定生産のため養殖コンブへの転換を進めました。この養殖への転換は、ブルーカーボン生態系による **CO₂吸収源の維持・拡大** に貢献している可能性があることから、利尻富士町では、気候変動緩和策のプロジェクトとして位置付け、推進することとしました。さらに、本プロジェクトの推進は、**日本の和食（だし）文化を守る** 上でも重要と考えています。

今回の利尻富士町の鶯泊昆布養殖部会及び鬼脇昆布養殖部会が生産するリシリコンブのCO₂吸収量を計上しています。



水揚げされる養殖コンブ



株主による昆布干し体験

◆プロジェクトの特徴

➤ 地球環境問題を考え、漁業者自らが調査に参加しています。また、漁業者と消費者を直接結び付ける **利尻昆布株主事業** を実施。株主には生産されたコンブを送付するほか、**オーナーニュースの発行や現地での漁業体験を通じてブルーカーボンの取組を発信** しています。

【R6実績】株主177名（道内95名、道外85名）、5組8名の漁業体験の受入

➤ 次世代を担う小中学生に昆布の大切さを伝えるため、ふるさと教育・環境教育の一環として **昆布集め体験** や **出前授業（コンブの話）** を実施。生産方法のほか、ブルーカーボンの取組や、うま味成分について直接漁業者から伝えています。

➤ 天然漁場の磯焼け海域においても、**自然の波浪の力を利用し、海底の石灰藻を清掃することでコンブ藻場を回復** させるチェーン振り事業にも取組んでおり、気候変動対策のみならず、コンブ藻場の再生・回復による **魚介類・ウニ類等多様な生物環境の保全** が期待できます。



出前授業（こんぶの話）



チェーン振り事業